

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 1	福山市立東中学校
最終更新日		2024年(令和6年)4月5日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力、表現力、自他の尊重
「主体的な学び」とはどんな学びなのか、「楽しく学ぶ」とはどういう子どもの姿なのかについて4校での合同研修の中で論議を深め、目指す学びの姿の共有化を図ってほしい。	話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりしている意識は高まっている。自分の考えを工夫して発表する点については、改善はされているが課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子
		中学校区として統一した取組等	全教職員が2つの部会に所属し、授業研究と実践交流を行う。 ①授業改善・ESD部会 ②特別支援・長欠ゼロ部会

III 自校

ミッション	地域や社会に貢献する意欲を持った人材の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 課	表現する力 表	自他の尊重 尊	
学校教育目標	自ら考え主体的に生きる生徒の育成	めざす子ども像	学年	自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに解決方法を考え実行する。	自分の考えや思いを整理して、分かりやすく、相手に伝える。	自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違う他者を、理解しようとする。
現状	<生徒> ・授業で考えることが面白い。75% (-2) ・友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めている。90% (0) ・中学校の学校生活に満足している。87% (-2) <教職員> ・『学び合い』で生徒が意欲的に取組むよう、授業で「語る」ようにしている 85% (0) ・生徒の学ぶ意欲を高め、主体的な学びを推進している。100% (+7) ()は前年度との差		一学年	自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに論理的・批判的に解決方法を考え実行する。	自分の考えや思いを整理して、分かりやすく、根拠に基づいて、相手に伝える。	自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違う他者と、共通の目標のために協力する。
			二学年	自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに論理的・批判的に解決方法を考え実行し、新たな課題の発見につなげる。	自分の考えや思いを整理して、目的・場面・状況に応じて臨機応変に、相手に伝える。	自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違うことの意味を理解し、多様な他者とともに新たな価値の創造に取り組む。
	全体的に前年度より数値が下回っているが、教職員が学びに取り組んでいる意識は向上しており、取組の質の向上が求められる。	研究	テーマ	自ら考え、共に学び深め合う生徒の育成 ～生徒が主体を持つ協働的な学びを通して～		
			内容等	・授業の予習を推奨することで、自ら学習内容を達せさせることの楽しさを知る。 ・生徒同士のかかわり合いの中で、コミュニケーション能力を育成する。 ・生徒同士のかかわり合いの中で、主体的に学習内容をつかみ取る。		
			めざす授業の姿	・疑問や考えを質問・説明し合う活動『学び合い』を通して、考えを深めたり、広げたりしている。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 東中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)		
							□指標に係る 取組状況	□未達成 評価	□改善 方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	□未達成 評価	□改善 方策
5	主体的な学びの 推進 学びを楽しむ生 徒の育成	★	継 続	生徒が楽しみなが ら考えを広げたり 深めたりする授業 を日常的に展開す る。	全授業者による学 期1回以上の『学び 合い』授業公開	生徒アンケート「授 業で考えることが 面白い」肯定的回答 80%以上(昨年度 76%)						
					学習指導要領を踏 まえた教材研究に よる課題設定の工 夫	「記号接地」を視点 にした授業づくり について全授業者が自 分の言葉で語ること ができる						
5	長期欠席者ゼロ への取組 よりよい生活を 考えて行動する 生徒の育成	★	継 続	子ども主体の授業 や学級・学年づく り、学校行事の推 進・充実を図る。	全ての生徒が自分 が大切にされてい ると実感できる学 級・学年づくりの推 進 生徒が企画・運営す る行事や集会の実 施、内容の充実	長期欠席者数昨年度 (30名)以下 生徒アンケート「東 中の学校生活に満足 している」90%以上 (昨年度87%)						
5	ESD 教育への 取組 社会に貢献する 生徒の育成		継 続	持続可能な社会の 創り手としての意 識を醸成する。	総合的な時間の単 元においてSDGs の取組を位置づけ、 取り組み成果を各 学年で発表する。	各学年の総合的な 学習における成果 発表にかかる実施 率100%						

5	教職員の元気・笑顔	継続	教職員が元気で生徒と向き合う時間が確保できる職場環境をつくる。	1日の時間外勤務を2時間以内にする 時間割の工夫や部活動休養日による時間確保	時間外勤務が月平均45時間を超える教職員の割合50% (昨年度40%) 教職員アンケート「授業づくりを行う時間が確保されている」肯定的回答率70% (昨年度45%)					
---	-----------	----	---------------------------------	---	---	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。